

甲南大学法科大学院入学試験問題について

－ 2016年一般入学試験（前期募集・本学）－

試験科目：民事訴訟法（担当：法科大学院 教授 宮川 聡）

1. 出題趣旨

いずれも第一審手続の基本原則や重要な制度の関する基本的な知識を問う問題である。

任意的訴訟担当については，訴訟担当とはどのような制度かをまず明らかにしたうえで，法定訴訟担当との比較で任的訴訟担当の具体例を挙げ，とくにこれを許容する明文規定がないときの問題点を指摘することが期待された。

証拠保全については，あまり勉強されていない手続であるが，条文を踏まえたうえで，その制度趣旨や役割について簡潔に説明する必要があった。

適時提出主義は，旧法下の随時提出主義との相違点を踏まえたうえで，審理の迅速化のために争点および証拠の整理手続の導入とともにこの原則が採用されたことに言及することが期待された。

2. 採点実感

証拠保全手続について極めて不十分な解答が多かった。特に目についたのは，民事訴訟法の条文を写すだけでそれ以上の解説を全くしていない答案であった。このような答案には，点数を与えることができないので，注意が必要である。

適時提出主義についても，手続全体を踏まえないで解答している答案が多かった。もう少し視野を広くする必要がある。